

2013年10月24日 全2頁

中国：金融引き締めではない（メモ）

経済調査部
シニアエコノミスト 齋藤 尚登

[要約]

- 一部で中国が金融引き締めに移るとの懸念が広がっている。しかし、資金流入などにより、市場で流動性がだぶつければそれを吸収するためのオペを行うのは当然である。基本的には、中立の金融政策が維持されているとみるべきであろう。

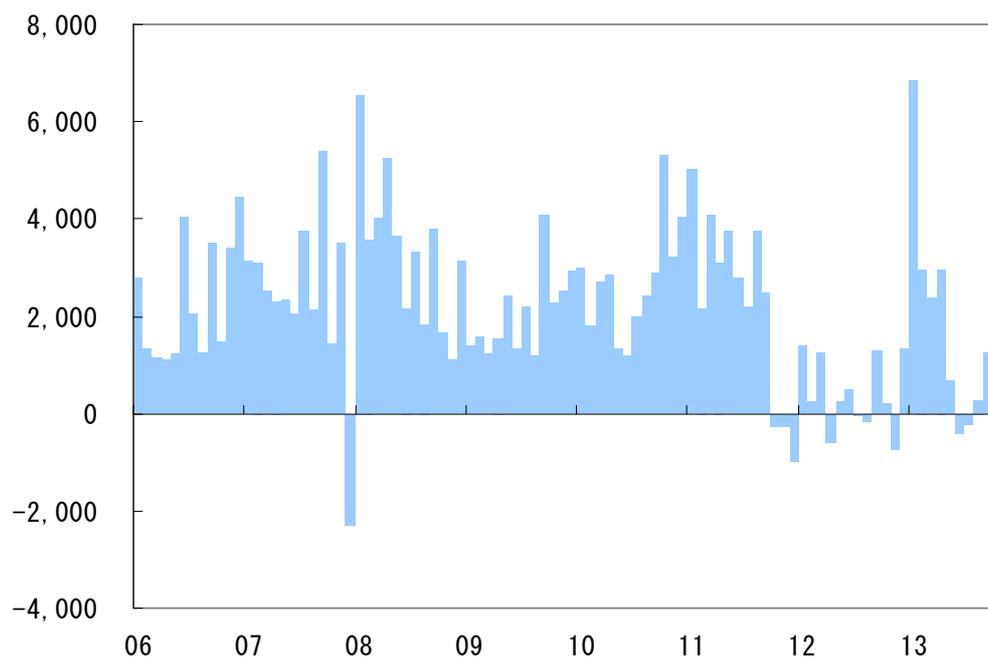
金融引き締めではなく、日常的な流動性調整

一部で中国が金融引き締めに移るとの懸念が広がっている。これは、中国人民銀行の宋国青・貨幣政策委員会委員が、ロイター社のインタビューで「インフレ懸念が高まる中、中国人民銀行の政策はやや引き締め気味となり、手段としては公開市場操作による微調整が中心となるだろう」と発言したことが大本となっているようである。上海銀行間金利（SHIBOR）翌日物は「引き締め懸念」を嫌気して、10月22日の3.05%から24日には4.09%へ上昇した。

しかし、市場で流動性がだぶつければ、それを吸収するためのオペを行うことは当然である。中国人民銀行を中心とした金融機関が外貨を買い入れ、市場に放出した人民元の残高を「外国為替資金残高」と呼ぶ。この残高は2013年6月、7月に純減となった後、8月、9月は2ヵ月連続で増加している。9月は1,263.6億元（約2兆218億円）の増加である。資金が再び流入し始めたのだが、その金額はさほど多くはない。見合いの人民元をオペで吸収するのは、日常の流動性調整であり、基本的には、中立の金融政策が維持されているとみるべきであろう。

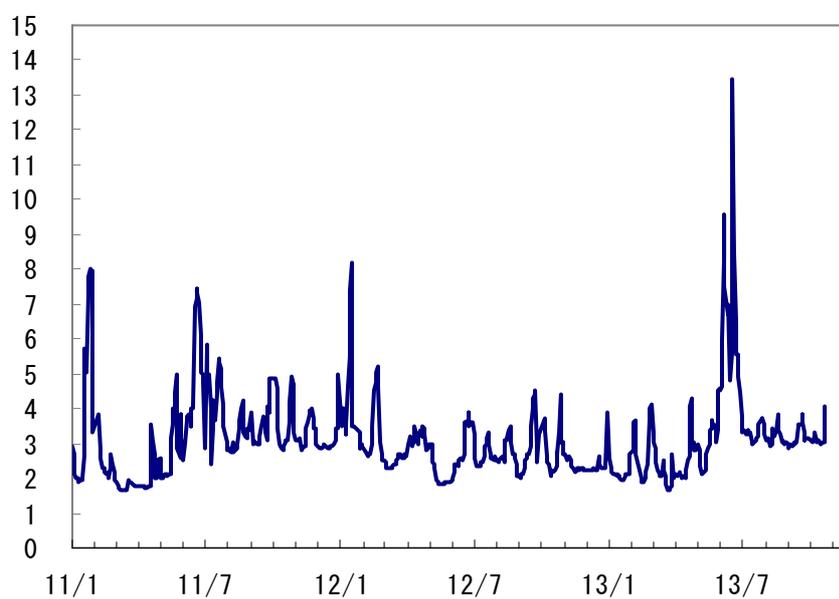
以上

外国為替資金残高の増減（前月比）（単位：億元）



（出所）中国人民銀行より大和総研作成

上海銀行間金利翌日物の推移（単位：％）



（出所）中国人民銀行より大和総研作成